



TITLE:

研修員 日本学術振興会特別研究員  
受託研究員 特別研究学生 研究生 所  
内談話会 公開講座 夏季セミナー  
(第3回) 市民公開日(第2回)(I 研究所  
の概要)

AUTHOR(S):

CITATION:

研修員 日本学術振興会特別研究員 受託研究員 特別研究学生 研究生 所内談話会 公開講座 夏季セミナー(第3回) 市民公開日(第2回)(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1992, 22: 47-49

ISSUE DATE:

1992-10-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164394>

RIGHT:

Abstracts, p. 149.

- 27) Hashimoto, C. (1991) : Mother/Infant behavior. Understanding Chimpanzees : Diversity and survival. (Chicago) . 1991年12月13日.
- 28) Furuichi, T. and Hashimoto, C. (1991) : Development and change in the social role of bonobo sexual behavior. Understanding Chimpanzees : Diversity and survival. (Chicago) . 1991年12月11日.
- 29) Matsumura, S. (1991) : Contexts and effects of male loud calls of moor macaques. 22nd International Ethological Conference. Abstracts, p. 147.
- 30) Ueki, K., Matsumura, M. and Kubota, K. (1991) : Behavioral deficits induced by local injection of GABA<sub>A</sub> and GABA<sub>B</sub> antagonists into the motor areas of the primate cortex. Jpn. Physiol., 41 : S253.
- 31) 植木浩一郎 (1991) : 脳の機能的モデル. 第7回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2) : 163.
- 32) 小川秀司 (1991) : チベットモンキーのブリッジング行動における三者の社会関係. 第7回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 7 (2) : 155.
- 33) Ogawa, H. (1991) : Triadic social relationship in bridging behavior among Tibetan monkeys. 22nd International ethological conference. Abstracts, p. 90.
- 34) Hanazawa, A., Mikami, A. and Kubota, K. (1991) : Effects of iontophoretically applied norepinephrine on visually responsive neurons of V4 in rhesus monkeys. Neurosci. Res., 16 : S126.

## 研 修 員

氏 名	指導教官	研 修 題 目	研修期間
日上耕司	松沢哲郎	霊長類の社会的相互作用の実験心理学的研究	3. 4. 1 ～ 4. 3.31
芝原総子	大澤秀行	放飼場飼育ニホンザルグループ	3. 4. 1 ～

における社会関係及び生理学的動態と性行動との関係について	4. 3.31
小型哺乳類の社会学的研究	3. 8. 1 ～ 4. 7.31
霊長類 $\alpha$ -グロビン遺伝子領域の組み換えについて	3. 8. 1 ～ 4. 3.31
コンゴ国熱帯雨林における同所性霊長類の研究	3.10. 1 ～ 4. 3.31

## 日本学術振興会特別研究員

氏 名	指導教官	研 修 題 目	研修期間
伏見貴夫	小嶋祥三	霊長類のコミュニケーションに関する実験的研究	3. 4. 1 ～ 5. 3.31
友永雅己	松沢哲郎	霊長類の知覚認知における刺激性制御の実験的分析	3. 4. 1 ～ 3. 4.30
大石高生	久保田競	前頭連合野の行動制御の可塑性の神経科学的研究	3. 9.25 ～ 4. 3.31

## 受託研究員

氏 名	指導教官	研 修 題 目	研修期間
友清和彦	中村 伸	血液凝固因子に関する研究	3. 4. 1 ～ 4. 3.31
安藤一郎	久保田競	大脳生理学の研究	3. 7. 1 ～ 4. 3.31

## 特別研究学生

氏 名	指導教官	研修題目	研修期間
上野吉一	小嶋祥三	フサオマキザル (Cebus apella) の urine washi ng の基礎的研究	3. 4. 1 ～ 4. 3.31

## 研 究 生

氏 名	指導教官	研修題目	研修期間
山根 到	久保田競	利き手と脳支配の関係	3. 4. 1 ～ 4. 3.31
藤田正勝	瀬戸口 烈司	脊椎動物の比較形態学的研究	3. 4. 1 ～ 4. 3.31

## 所内談話会

第1回：平成3年5月30日

熊崎清則（京都大・霊長研）「ボッソウの野生チンパンジーを真近に見て」

第2回：平成3年6月20日

森下玲児（京都大・保健診療所）「熱帯地方の感染症とその予防法について」

第3回：平成3年8月6日

Leonard A. Rosenblum (Primate Behavior Laboratory) 「The study of mother-infant attachment in non-human primates」

第4回：平成3年8月12日

Amotz Zahavi (Tel-Aviv University) 「The theory of signal selection」

第5回 平成3年9月26日

Alberto Cadena (National University, Colombia) 「The natural history of La Macarena」

第6回：平成3年10月14日

Peter Schmid (Universität Zürich-Irchel) 「On the locomotion of Australopithecines」

第7回：平成3年10月24日

藤田和生（京都大・霊長研）「錯覚の比較心理学」

第8回：平成3年12月26日

澤口俊之（京都大・霊長研）「前頭前野，メモリーマップ，トローパミン」

第9回：平成4年1月30日

木村 賛（京都大・霊長研）「ホモサピエンスの出現と系統」

第10回：平成4年2月3日

John Mitani (Michigan University) 「野生チンパンジーの音声伝達」

第11回：平成4年3月26日

三輪宜勝（京都大・霊長研）「過去12年の研究所のサルの動態」

（談話会係：浅岡一雄・林 基治・川本 芳）

## 公 開 講 座

「霊長類の進化」

霊長類研究所では、8月19・20日の両日にわたって公開講座を開催した。今年は第7回目である。

参加者は中・高校教員が圧倒的に多いものの、自営業、会社員、主婦と幅広い。例年どおり大多数は東海地域在住者であるが、近畿や遠くは四国・関東からの参加者もあった（定員80名）。今回は霊長類の特徴を、形態学、生化学、大脳生理学、動物行動学の観点から取り上げ、ヒトとの共通点・相違点を明らかにした。また、受講者全員が実習を受け、自分自身で研究の現状を少しでも理解できるよう配慮した。

講義・実習題目と講師は以下のとおりである。

総 合 司 会 相 見 満

マカクの起源・分布を中心に	岩本光雄
DNAから見た霊長類の進化	竹中 修
行動と脳の進化	久保田競
野生チンパンジーの道具使用	杉山幸丸
電子顕微鏡実習	野上裕生
サルの屋外行動観察実習	森 明雄
心理学実習	藤田和生

（文責：相見 満）

## 夏期セミナー（第3回）

北海道から九州の15大学から学部学生、研究生49名を受け入れ2日間にわたり研究所の施設、研究活動を紹介した。

7月16日(火)

9:30~10:00 所長挨拶(久保田競)  
ガイダンス(川本 芳)  
10:00~11:00 形態基礎研究部門(岩本光雄)  
11:10~12:10 神経生理研究部門(久保田競)  
13:00~14:00 心理研究部門(松沢哲郎)  
14:10~15:10 生活史研究部門(杉山幸丸)  
15:20~15:50 社会研究部門(加納隆至)  
16:00~16:30 ニホンザル野外観察施設  
(東 滋)  
16:30~17:30 所内見学  
18:30~ 懇親会

7月17日(水)

9:00~10:00 変異研究部門(庄武孝義)  
10:00~11:00 生理研究部門  
(林 基治・野崎眞澄)  
11:10~12:10 生化学研究部門(竹中 修)  
13:00~14:00 系統研究部門(野上裕生)  
14:00~15:00 サル類保健管理施設  
(後藤俊二)  
15:30~17:00 総合討論(各関係教官)  
(文責:川本 芳)

## 市民公開日(第2回)

研究所では、当研究所が目的としているところや現在行っている研究を地域の人々に理解していただくことや、1989年10月のチンパンジー逃亡事件を契機として、研究所を原則として立入禁止にしたことなどの理由から、昨年度(平成3年度)より市民公開日を設けている。

来訪者数の予想が難しいことから、昨年度同様、丸山、富岡地区の中学生以上の方々(ただし小学校高学年は保護者同伴なら可)を対象とした。各区長にお願いして案内状を送り、下記の実施した。約30名の来訪者があった。

日時:平成3年10月20日(日) 13:00~16:00  
13:15~13:30 久保田所長挨拶  
13:30~14:30 講演 加納隆至教授  
「ビッグミーチンパンジーを訪ねて」  
14:30~16:00 所内見学(サル放飼場)、ビデオ上映、パネルでの研究所

案内

14:30~16:00 質問コーナー  
(文責:野崎眞澄)

## 学位取得者と論文題目

京都大学博士(理学)

五百部裕(課程)

Male-male relationships of wild bonobos  
(*Pan paniscus*) at Wamba, Republic of  
Zaire.

大石高生(課程)

GO/NO-GO課題の学習と遂行におけるサル  
前頭葉の役割—GABA拮抗阻害剤の局所注  
入による研究—

稲垣晴久(論文)

ニホンザルの体毛の地域差

井上美穂(課程)

Application of paternity discrimination by  
DNA fingerprinting to the analysis of social  
behavior of Japanese macaques.

佐倉 統(課程)

Reconsideration of the concept of group of  
animals.

高井正成(課程)

Middle Miocene monkey fossils from La  
Venta, Colombia, South America.

室山泰之(課程)

Reciprocity of grooming in primates.

京都大学修士(理学)

関根雅夫:カニクイザルの母子隔離に伴う生理的、  
免疫的、行動的指標の変動

田中 香:野生ニホンザルのコドモの葉食行動:  
他個体との関わりに関して

花沢明俊:V4ニューロンの活動に対するノルアドレナリンの影響:注意に係る脳内のしくみ